



また、このチェンバロは日本のチェンバロ製作者・安達正浩氏が手掛けたものです。響板のデザインは宇治川の太鼓橋と藤を描いた屏風をもとにしており、各部の装飾は仏師が手掛けています。西洋と日本の古い時代の美が見事にとけあった名器が、舞台に華を添えていました。